

『イエスは主』 コリント人への手紙第一 12章 1～3節 2015.5.24(日)ペンテコステ礼拝より

『聖霊によるのでなければ、だれも「イエスは主です」と言うことはできません』Ⅰコリント12:3

◆聖霊についてイエスは、『…父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられる…(ヨハネ 14:16)』と紹介された。更に聖霊は、使徒 1:9 で「力を下さるお方」と言われた！常に共にいてくださり、主を信じる者を助け、必要な力(主を信じ、祈り、御言葉を悟り、讚美し、感謝する力…罪を聖め、誘惑に打ち勝ち、敵を赦し、思いやる力…)を与えてくださるのは聖霊様なのだ！聖霊の支配と影響力を受けるまで私たちは、この世の常識や理性、経験や人の意見に支配されてきた。「〇〇先生はこう言った」「あの本にはこう書いてあった…」等々。しかし聖霊を受けた時、私たちは、この世の誰よりも、何よりもイエス様の恵みの支配を受ける者となる。

◆「主(キュリオス)」とは「神」のこと。聖霊により「イエスは私の主です」と告白するとき、私たちはイエスを神として崇め、生活の全てを委ねて従う。そもそもイエスとはどんな方だったのか？一言で大嵐を鎮め、2匹の魚と5つのパンで、何千人もの人を満腹させ、病を癒し、ヤイロの娘も、死んで4日目のラザロも甦らせた。人々は、『この方は一体どういう方なのだろう』と恐怖した。自ら神宣言すらなさったお方(ヨハネ 8:58)は、十字架にかかられ、私たちの罪の身代りに殺され、神に捨てられ、呪われた…。この方を神として「私の主(神)です／救い主です！」と告白するとき、あなたの人生も世の全ても、この方の恵みの支配下にあることを知る。

◆さて、私たちが「イエスは主」と告白するとき、それはどの領域の主？人生の全ての領域の主だろうか？日曜日の午前中だけは主で、午後からは自分が主ではないのか？主への告白は、両腕、片足がなく生まれたレーナ・マリヤさんが告白し、三重苦のヘレンケラーさんも捧げた。人生のあらゆる不満や不安、苦しみや恨み、怒り、恐れ、孤独…の真ん中で、主が、この人生に対して特別なご計画、特別な目的や意味があることを信じて告白するのである。

◆『主を喜ぶことは、あなたがたの力である(ネヘミヤ 8:10)』。主を最高に喜べるのは礼拝の時。それは、主『が』あなたを喜ばれる時でもある。イエスを主と納得させてくださる聖霊の注ぎは、興奮や叫びのようなダイナミックなものというより、内なる静かな確信であり、ふっと肩の力が抜けて重荷を下ろさせるもの。聖霊の助けをいただき、『イエスは私の主です』との確信を導いていただき、主の臨在と助け、その圧倒的な力を喜ぶ者とならせていただこう！